

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	高次脳機能障害Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期 6,7時限他	教室名	401
担 当 教 員	小坂将史	実務経験と その関連資格	社会医療法人弘道会内の病院や老人保健施設等にて、言語聴覚士としてリハビリテーション業務に従事していた。			
《授業科目における学習内容》						
高次脳機能障害について医学的観点から基礎となる知識を習得する						
《成績評価の方法と基準》						
定期テスト100% (試験素点が60点以上を合格とする)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
授業は資料を配布し、PCスライドで授業を行う、また適宜小テストを行う 参考図書:標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学―第3版― 医学書院出版株式会社						
《授業外における学習方法》						
事後学習として、授業のまとめをしっかりと押さえたり、授業内で実施される確認問題を適宜見直したりして、知識の定着に努めてもらえたらと思います。						
《履修に当たっての留意点》						
脳の機能局在や高次脳機能障害の基本的知識を学び、生活の中での困難な状況やその解決方法もイメージしながら、理解を深めていってください。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能の基本概念、神経心理学的な考え方について述べるができる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	高次脳機能の基本概念、神経心理学的な考え方について学ぶ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚性失認の各タイプの特徴について説明できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	視覚認知の障害(視覚性失認)について学ぶ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮質盲、幻視と錯視、相貌失認、色彩失認の症状について説明できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	視覚認知の障害(皮質盲、幻視と錯視、相貌失認、色彩失認)について学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	半側空間無視の原因と発症メカニズム、症状について説明できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	視覚空間認知の障害(半側空間無視)について学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	地誌的見当識障害、バリエーション症候群、構成障害の症状について説明できる		・ PCスライド ・ 配布資料 ・ 確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	視覚空間認知の障害(地誌的見当識障害、バリエーション症候群、構成障害)について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚認知の障害、触覚認知の障害の主要な障害像の概要について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	聴覚認知の障害、触覚認知の障害について学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体意識・病態認知の障害について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	身体意識・病態認知障害について学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	特定動作の障害(観念運動性失行、観念性失行など)の症状について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	行為・動作の障害(行為・動作水準の能力の障害)について学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶の分類、記憶障害の発症メカニズム、症状について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	記憶の障害(記憶の分類、発症メカニズム、症状)について学ぶ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶障害の評価・診断・リハビリテーションについて説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	記憶の障害(記憶障害の評価・診断・リハビリテーション)について学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	前頭葉と高次脳機能障害の症状について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	前頭葉と高次脳機能障害について学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	左半球優位の症状、右半球優位の症状について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	脳梁離断症状(左半球優位症状、右半球優位症状)について学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の定義、診断の手順、原因疾患について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	認知症(定義、診断の手順、原因疾患)について学ぶ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳外傷による高次脳機能障害の症状について説明できる	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	脳外傷による高次脳機能障害について学ぶ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1回～第14回で学んだ内容について述べることができる。	・PCスライド ・配布資料 ・確認問題	事前学習として、参考図書である、テキストの該当項を一読しておく
		各コマにおける授業予定	種々の高次脳機能障害についてのポイントを改めて確認する		